

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔カ メラ〕（店長）	来客数の動き	・来客数の増加もあり、写真関係の売上は前年を上 回っている。ハードは、人気商品の入荷状態が良くない ので停滞している。
		百貨店（広報担 当）	お客様の様子	・月の最高気温の平均が前年に比べ3、4度低く、婦 人服が苦戦し前年を下回るものの、特選ブティックが 依然好調である。また催事の効果で、子供服、食品が 目標予算を達成している。その結果、全社で前年実績 をクリアした。店頭だけでみれば、7か月連続で前年 実績を上回っている。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・男女問わず、春物の動きが良い。また、節句の人形 など歳時期商材も良好である。支出に対する抵抗感は 薄れてきている。
		百貨店（経営 者）	お客様の様子	・何か気に入ったものがないかなど、客が何かを求め ようとしていることが感じられる。その何かを提示で きれば、価格にかかわらず購入することが顕著に なっている。問題はそれを企画して用意できるか である。
		衣料品専門店 （店長）	単価の動き	・ゴールデンウィークに向けて、カジュアル服のコー ディネート商品の客単価アップがあり、景気が上向き になっている。
		乗用車販売店 （経営者）	来客数の動き	・4月の見込み客が新型の小型車の販売が好調なため 3月に流れてしまった結果、再度仕切り直しとなってい る。しかし、思った以上に受注が多くなっている。
		その他専門店 〔白衣・ユニ フォーム〕（営 業担当）	販売量の動き	・1月、2月は雪のために人の動きもなかなかなか ったが、3月、4月はやっと動きだした。先送りになっ た分、今の時期は良くなっている。
		高級レストラン （支配人）	来客数の動き	・宿泊、レストランの利用数が目立って増えている が、客単価が伸び悩んでいる。
		一般レストラン （経営者）	販売量の動き	・競合への差別化を意識した価値観がある、単価の高 い商品の販売量が顕著に伸びている。
		一般レストラン （経営者）	販売量の動き	・前年よりも売上が良かった。例年ならば、花見と重 なり来客数が減少するが、今年は寒かったせいか順調 に売上を伸ばせた。
		都市型ホテル （経営者）	来客数の動き	・宿泊については、首都圏から来る客が多いこともあ り、利用客が増えている。料飲施設についても、二次 会の流れ、週末の来客数の増加をみるとやや良くなっ ている。
		旅行代理店（従 業員）	単価の動き	・ゴールデンウィーク期間中の海外旅行の申込が、前 年よりも増えた。国内のゴールデンウィークの宿泊 は、ここ2、3年は混んでいる時期でも何とか予約が 取れていたが、今年は本当に取れない日が出てきてい る。しかし、このように一部では景気が良いようであ るが、一方で厳しいところもあるようである。
		タクシー運転手	来客数の動き	・少し乗客が増えている。特に夜の乗客が増えてい る。
		住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・顧客の動きがとても良く、年内入居希望者がとても 多く、受注にもつながっている。
		変わらない	一般小売店〔ス ポーツ用品〕 （経営者）	来客数の動き
百貨店（企画担 当）	それ以外		・4月に入った途端に低温で、今売らなければならない 春物衣料が非常に不調であった。	
百貨店（売場担 当）	お客様の様子		・今月は気温が不安定なこともあり、今着れる物を慎 重に購入する客が多かった。また、おしゃれ着兼仕事 着として活用できるアイテムの需要が増えている	
百貨店（販促担 当）	お客様の様子		・月前半は、気温が上がらず、春から初夏物の動きが 非常に鈍かった。特に、婦人、紳士服全体や、身の回 り品が厳しかった。特選ラグジュアリー関係は引き続 き好調に推移し、若干であるがこの部門は上向き傾向 である。	

	百貨店（経営者）	お客様の様子	・物産展などの大きな企画を実施した時の客の反応は良いが、春物から初夏物への切替え時期としては、気温が低いため、来客数、買上客数が少なく、月平均の前年比は3か月前とほとんど変わらない。
	スーパー（経営者）	来客数の動き	・マクロ的には非常に良い状況が聞かれるが、食品については、一品単価の上昇もなく、非常に厳しい。競争も激しく、価格の上昇が抑えられており、客の消費動向もガソリン等の値上げとあいまって、なかなか盛り上がっていない。
	スーパー（店長）	単価の動き	・既存店前期比で、客単価が99%と前年を割っている。依然として、買上点数の前年割れが続いているが、一品単価は3か月連続で前年並みまで回復してきた。競合各社のディスカウント価格も底値になってきた。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・一時的に第3のピールの増税で駆け込み需要があり、酒類については、前年の売上を大きくクリアした。しかし、天候の影響で果物の需要と供給が1か月ほどずれ込んでおり、落ち込みが大きい。
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・2月以降競合出店が増加しており、確実に来客数が減少している。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・気温が低かったこともあり、大きな売上を占めるドリンク類、アイスクリーム類が大きく前年を割っている。主力商品である米飯も前年90%程の推移で売上が悪い状況である。
	コンビニ（店長）	来客数の動き	・4月は例年に比べ、気温が低く、観光客も天気に左右されて少なかった。
	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・今月は、天候、気温によって、日々良し悪しが左右されているが、平均的に単価が上がり、来客数は前年を下回るという状況がここ数か月続いている。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・客単価は非常に良くなっているが、春物の動きは天候不順の影響を受けており、特にジャケットを求める客が減少し苦戦している。
	衣料品専門店（店長）	単価の動き	・来客数が増え、買上点数も伸びてきているが、商品単価が伸び悩んでいる。
	衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・新入学、進学などで学校用品が買い求める時期であるが、客の動きをみると客単価、数量ともに大きな伸びはない。
	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・思ったほど春需要が少なかった。オリンピック関連や、サッカーワールドカップに向けた目立った動きはない。
	住関連専門店（経営者）	単価の動き	・客によって所得格差があるのかもしれないが、高い物を求める客と、どうしても必要に迫られて安い物しか買えないという客とで二極化している。
	その他専門店 [靴]（経営者）	販売量の動き	・今年は春物の動きが3月から活発で、その反動が4月に来ている。春物全体の売上は毎年徐々に落ち込んできている。
	その他専門店 [酒]（営業担当）	販売量の動き	・今月は酒税法の改正があり、清酒関係は動きが非常に悪いと予想されたが、関係者による対応がなされ、予想ほどの悪さではなかった。流通や販売がスムーズに動いていない。
	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・値下げを実施したところ来客数がどっと増えた。客は、単価を下げると来る層と単価が高い高付加価値の商品を求めて来る層とに二極化している。
	その他飲食 [弁当]（スタッフ）	販売量の動き	・市内は3か月前から景気が悪い。いろいろなマンションができてきているが、当店の売上は厳しく、土日も人が集まらない。
	観光型ホテル（経営者）	販売量の動き	・4月は、来客数は前年比3%減、売上は8%増となった。特に館内での飲食、宴会、消費が好調であった。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・原油の高騰でかなり消費が低迷している。販売量もかなり減少している。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・現時点での客との商談から設備投資への手控え感があり、報道にあるような首都圏大企業の好感感はなく感じられず、地方までの広がりは感じられない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・今年の2月も落ち込みが大きかったが、今月は全く来客がない日が多く、今までにない売上の減少で、悪くなっているのが強く感じられる。

		商店街（代表者）	競争相手の様子	・季節天候要因を勘案しても、4月は消費マインドが低下している。一時的なもので終われば良いが、飲食、物販ともに徐々に不振であった。	
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・4月になっても寒さが続き、桜の開花も遅れ、花見客が繁華街に流れてこない。	
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・雪解けが前年よりも早かったが、今月は気温が上がらず寒い日が続いたため、前年よりも来客数が少なく、初夏物衣料に全く動きがみられない状況である。	
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・催物を実施される時は良いが、その前後は客が買い渋り傾向にある。以前は夜も忙しかったが、急に暇になることが、以前と比べて目立つようになった。	
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新年度の4月に入ってから、軽自動車は堅調に推移しているものの、登録車は3月の反落が10%近く落ち込んでいる。緩やかな景気回復は、いまだ自動車の販売まで至っていない。	
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車効果も3月までである。4月に入ってから新車の受注が大きく落ち込んでいる。	
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	単価の動き	・原油高の影響があり、価格も不安定で、客は動揺している。業者としても大変困惑している。	
		高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・単価も上がらず、来客数も増えていない。魚を仕入れる市場でも他の飲食店や魚屋で同じ声が聞かれる。	
		都市型ホテル（スタッフ）	競争相手の様子	・中堅ビジネスホテルが高齢者向けマンションに衣替えし、新規進出ホテルも控え、過当競争はますます激しくなる。	
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・今月の入場者数は、前年比の80%である。4月初めまで雪が降り、道路状況も悪く入場者数が伸びなかった。	
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・低温や週末の天候不順が影響したことと学校団体がこれまで以上に遅れたことから、前年比1割減と低迷している。	
	悪くなっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月は、前月比14%減、前年比10%の減、1日平均50人の来客数の減となり、4か月連続で前年比を割っている。昨年末から3月までで、大手製造業4社で300～400人のリストラがあり、大きな影響を受けている。	
企業動向関連	良くなっている やや良くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気の良い調さも関係しているが、住宅の水まわり部分の浴室、台所、トイレの改修が増えている。	
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月から製品の価格を12～20%値上げした。販売数は落ちたが売上は前年より増加している。新製品を同時に発売しその分の売上でどうにか全体でも売上増である。	
			輸送業（従業員）	取引先の様子	・各業者によって差はあるが、製品輸出が多くなってきた。輸入は衣類が好調である。
			通信業（営業担当）	取引先の様子	・新年度に入り営業提案に興味を示してくれる企業が比較的多い。受注までは不透明ではあるが、ある程度は期待が持てる。
			金融業（営業担当）	取引先の様子	・資金需要が前年比3%以上の増加基調にあり、今後も同程度の推移が見込まれる。
			経営コンサルタント	取引先の様子	・中小工務店では住宅着工の増加とともに、利益を伴う売上が伸びつつある。
			その他企業〔管理業〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は、工場がフル操業で生産が追いつかない状況である。
	変わらない		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・酒税法改正により一時的な需要があり、数量は増加したが、その分を除けば減少である。
			木材木製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・住宅部材の値上げによる採算の改善を行おうとしているが、値上げ交渉がなかなか進まず、収益改善が不十分である。
			一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・自動車部品については、引き続き好調で、売上、利益ともに高水準を維持している。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・軽油の高騰に歯止めがかからず、貨物運送業としては経営が厳しい。	

		広告代理店（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・案件数は増加しているものの、受注価格は相変わらず低い。期待値ほどの動きがない。
やや悪くなっている		繊維工業（総務担当）	取引先の様子	・得意先アパレルの秋冬物の在庫は、厳冬のため少なくなっただけとはいえ、今後のことを考え、秋冬物の注文には不透明感が出てきている。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・年度の初めは、どうしても絶対量のある仕事が少ない状況である。新製品の引き合いが出てきているのであまり悲観はしていないが、今後ますます短納期要求がでてくる。残業等に対応することも効率が悪く、利幅がなくなっている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	競争相手の様子	・全体の好景気の影に隠れた形で、中小企業の景気は厳しいとの競合他社の声が多い。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・新聞購読を収入減、リストラ等の理由でストップしている所が多い。購読料の支払にも苦慮している所が多く、当店でも回収に苦労している。折り込みチラシについても、横ばいからやや減、前年同期と比べても、増えていない。
悪くなっている				
雇用関連	良くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・4月から製造業務請負が新規で開始し、通信大手企業からのまとまった注文や産休、育休代替の依頼等もあり、年度初めから良くなっている。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・郊外にある大手の工場での積極採用が目立ち、雇用が拡大している。しかし、一方で現地での優秀な人材不足もあり、先方の希望スキルをカバーしきれず試験的採用が多いのも現状である。
やや良くなっている		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・登録希望者が少なくなっている。特に若年層（20代）が顕著である。各企業の直接採用が活発なためである。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・中途採用をする企業が増えている。その内容も単なる欠員補充ではなく、ラインの増強に伴うスタッフの増員や業務拡大による営業の増員となっている。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・具体的な求人は表立っていないが、中小以外の企業や工場などでは技術者やバイリンガルなどの優良な人材を近隣県外にも広く求めており採用（中途採用も含む）を行っている。景気上昇を想定した人材の青田刈りとも言えるこの動きが、採用にかかるコストを急激に押し上げている。中小との温度差が歴然としてきている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・より良い条件を求めて転職を希望する在職求職者が増加傾向にある。周辺の状況から、求職者がチャンスととらえているようである。
変わらない		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・求人数は、常用で4.1%増加、パートは20%減少し、その結果4.6%の減少となった。常用は8か月連続増加し、パートの減少は4か月続いている。パートは減少しているものの、フルタイム常用求人は着実に増加している。一方、求職者は3か月連続で増加しているが、在職者が19.8%増加しており、求人数の増加とともに、より条件の良い会社への転職希望者が増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は前年比5%程度増加しているが、正社員の求人の割合が減少しており、3月は34.4%と新規求人全体の4割を下回っており、求人内容に問題がある。
やや悪くなっている		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人全体の動きは、割と上向きになりつつあり、新卒関係は好調な動きを示している。企業間格差があり、出先系企業は良くなりつつあるが、地元企業の採用が減っており、その格差が広がっている。